

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00715

研究課題名(和文)近現代議会資料「河井弥八関係文書」の総合的研究

研究課題名(英文)Study of parliamentary materials "Kawai Yahachi Papers"

研究代表者

小林 和幸 (Kobayashi, Kazuyuki)

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：00211904

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、明治後期に貴族院書記官に就任後、貴族院書記官長、貴族院議員、参議院議員、参議院議長などを歴任した河井弥八の日記について、未刊行であった参議院時代の日記などを刊行して、広く研究基盤を提供した。

あわせて明治・大正期の日記を翻刻・分析し、さらに河井周辺の関係史料および議会関係史料を新たに発掘、分析することによって、帝国議会貴族院議員の活動、政治会派の動向や議長ならびに議会事務局の役割を明らかにした。また、河井日記の検討から、戦後の参議院の政治会派「緑風会」の盛衰などを研究し、我が国二院制議会の歴史的研究を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、河井弥八日記の翻刻や刊行、分析研究が進められたことは、帝国議会貴族院や戦後の参議院の重要史料について、一般研究者の利用が容易になり、従来衆議院に比して研究が進んでいなかった貴族院や参議院という「第二院」の研究基盤を整備したという意義がある。

また、本研究グループは、関連史料の紹介、公開にも努め、その研究結果を示し、歴史的に貴族院や参議院が果たした役割を明らかにした。このことは、我が国の「二院制議会」研究において、今日的課題である参議院の制度や役割を再検討するための研究基盤を提供した点でも意義を有するものと思われる。

研究成果の概要(英文)：This study edited, reprinted and published the previously unpublished diary of Yahachi Kawai, who became the secretary, the member, and eventually the chairman of the House of Peers/Councillors in the Meiji and Taisho eras. It also discovered, reprinted and analysed the related materials of Kawai and related persons in and around the parliament and revealed the importance of the activities of the members of the House of Peers, the political groups, and the chairman and the secretariat of the parliament. It particularly focused, among others, on the working of a political group called 'Ryokufukai' in the House of Councillors, which gave an insight on the working of the bicameral parliamentary system of Japan at that time.

研究分野：日本近代史

キーワード：二院制議会 貴族院 参議院 議会政治史 議会事務局 議長 政治会派 緑風会

1. 研究開始当初の背景

歴史研究は、新たな資料の発掘と公開とともに発展してきた。従来、『伊藤博文関係文書』『原敬日記』のような資料の公開は、研究水準を大きく引き上げ、議論を活性化させた。一方で、こうした資料の発掘の機会が極めて限られている。近年の資料環境の固定化は、歴史研究進展の余地を狭めかねない状況となっていた。

こうしたことから本研究代表者は、明治・大正期の議会政治史研究に取り組む過程で、先人によって発掘・公開された多く資料を活用する一方、本研究グループなどの多数の協力者を得て、自らもいくつかの未公開資料を発掘し、調査・分析の上、公開するよう努めてきた。また、近年の議事録のデジタル化や公文書公開が契機となり、日本政治史研究においても、議会事務局やこれに属する官僚の重要性が注目されるようになった。

そこで、本研究グループでは、従来のような主要な政治家の動静だけでなく、「議会政治」全体の枠組みを重視し、それに関わる人物や組織の動きを総合的、多面的に理解すべきとの共通認識を得るに至った。しかし、裏方として議会を支えた議会官僚の個人資料(私文書)の発掘が立ち後れているという現状があった。このため、例えば公文書が存在しても、その意味が十分に把握できないという場面が珍しくない。

以上のような状況を打開し得る歴史資料として本研究グループが注目するのが、「河井弥八関係文書」である。河井は明治後年に貴族院書記官となり、大正8年(1919)には事務方の長である書記官長となり、大正15年(1926)までその地位にあった。その後は侍従次長などを経て、貴族院議員、さらに戦後、参議院議員となり、最後は三権の長である参議院議長にまでのぼりつめている。河井は克明な日記を残しており、その内容は議会事務局の動きはもちろん、明治・大正期の政治史を窺うことのできる第一級の資料といつてよい。貴族院と参議院、議会事務局と議院双方の長を経験した人物は河井以外になく、その点で同人は議会の裏表を知悉した人物といえるであろう。本研究では、「河井弥八日記」を中心とする関係文書を本格的に調査し、活用し、あわせて内外の議会関係資料を検討・分析することにより、近現代日本の「議会政治」史について、新しい研究を切り拓こうとするものである。また、研究者の共有財産とするため、こうした歴史資料の翻刻・公刊等を進めることは、多くの日本近現代史研究者から切望されている状況があった。

2. 研究の目的

本研究は、「河井弥八日記」ならびに「同関係文書」を中心として、議会関係者の資料を総合的に分析しようとするものである。前述の通り、河井は、明治後年に貴族院書記官に就任して以来貴族院書記官長、侍従次長を経て、貴族院議員、参議院議員、参議院議長を歴任した。河井については、従来、昭和天皇研究に関連して侍従次長時代に注目が集まるが、わが国の立憲政治・議会政治の発展期の活動こそ、重要な意義がある。河井が残した克明な日記や関係文書には、議会官僚から見たその発展の様子が明瞭に記されているからである。

ただし、「河井弥八日記」ならびに「同関係文書」を議会政治史の解明のため、有効に利用するには、周辺の議会事務局関係者、政治家等の資料を収集分析して、多角的に検討する必要がある。

本研究グループでは、それぞれが議会政治関係資料の発掘調査に努めてきたが、その経験を結集して「河井弥八日記」を中心に、その周辺の帝国議会ならびに国会の議会政治関係資料の分析・整理・公開を進める。特に河井の経歴から理解されるように、本研究は、帝国議会時代は貴族院、戦後国会については参議院の歴史的解明を進めようとするものであり、貴族院・参議院は、衆議院に比して従来、研究が進んでいなかった分野であることから、今後重視されるべき研究対象である。

本研究グループとしては、各自の研究成果を公開するとともに、未刊行の河井日記について、翻刻・刊行を進め、近現代議会政治史に新たな研究基盤を提供することを目的とするものである。

3. 研究の方法

本研究では、研究グループの協力により、下記の通り研究を進めた。

1) 「河井弥八日記」の分析と刊行

「河井弥八日記」が含まれる「河井弥八関係文書」は現在、遺族宅と静岡県掛川市教育委員会(以下掛川市)で所蔵されている。両者を併せた総点数は4万点を超え、多くは仮整理段階である。

本研究グループでは、これまで「河井文書」の分析などに取り組んできたが、既に岩波書店で刊行されている昭和初年の日記以外にも生涯の大半をカバーする日記が存在することを確認し、また、政府や議会関係者からの書簡、河井が自身で記した多数のメモや覚書、議会事務局や議院会派で作成された書類など膨大な資料も確認した。本研究では、これらの資料群の分析を進め議



「河井弥八日記」は、本図では赤色で示したものにあたり、その記述期間は、1904年の内務省に入省以前の学生時代から昭和35年までが残されており、そこには、貴族院書記官時代、宮中の内大臣秘書官や侍従次長時代、さらに貴族院議員時代や戦後の参議院議員、同議長時代を含んでいる。河井の日記は、宮中時代が刊行されているが、それ以外の時期も詳細な記述がされており、日本近代史とりわけ貴族院・参議院の歴史的な研究には極めて貴重なものといえる。

そこで、本研究では、未刊分の河井日記の刊行を進めた。まず、戦後の参議院時代につき、昭和30年から32年について、翻刻と内容分析を行い『河井弥八日記 戦後篇4』を刊行した。本書の刊行により、いわゆる「55年体制」の時期について、参議院議長の視点から政治的な諸問題を検討することが可能になり、政治史研究上の意義は大きいと思われる。また、この期間の日記には、衰退期を迎えている参議院の会派「緑風会」の動向や、河井が文化財保護委員会(後、文化庁)の委員長として活動した記録があり、当該期の文化行政を明らかにする上でも重要であると考えられる。

さらに、昭和33年~昭和35年の日記を『河井弥八日記 戦後編5』として刊行した。本日記には、侍従次長以来の関係を維持していた戦後の皇室に関する記述や吉田茂元首相の動向が記録され、また文化財保護委員会の活動内容が記載されている。また、戦中期の河井日記についても、研究分担者の森山優の研究グループで翻刻・刊行を進め、昭和16年・17年について、静岡県立大学の「Working Paper Series」により翻刻公開を行った。この間の日記からは、大政翼賛会と対峙する河井の政治姿勢や貴族院各派の動向が明らかになった。こうした河井弥八日記から得られる情報を研究者の共有財産とすることが出来たことは、本研究の大きな成果と考えている。

また、河井日記の明治、大正期の貴族院書記官を務めた時期の日記についても継続して翻刻作業を行った。さらに「河井弥八関係文書」をより総合的立体的に分析するため、議会官僚や政治家の個人資料の調査・分析を行った。これでは、河井の女婿で、戦前の内務官僚で戦後衆議院議員を務めた館林三喜男の日記の一部について、館林家所蔵史料を複製収集して分析検討を進めた。

こうした河井弥八日記をはじめとする河井周辺の史料分析を行う一方、そうした史料をもとに本研究グループは、貴族院や参議院関係の研究成果をあげている。

帝国議会貴族院関係では、研究代表者の小林和幸は、貴族院議員多額納税者関係資料について長野県選出の「山田荘左衛門関係文書」につき調査し、初期議会の貴族院の政治会派形成について、各府県利害関係が多額納税者議員の会派所属に結びつくこと等を明らかにした。また、香川

県選出の多額納税者議員鎌田勝太郎の資料整理を行い、重要史料について紹介すると共に目録刊行の準備を進めた。貴族院事務局に長く勤め貴族院の会派に精通していた「花房崎太郎関係文書」については、目録を作成して国立国会図書館憲政資料室で公開する手続きを進めた。また、貴族院子爵議員の曾我祐準について、人物研究を進め、貴族院の懇話会・土曜会の領袖として、藩閥政府批判や政党の利益追求姿勢の批判、過度な軍備拡張批判などの活動が「公論主義」によるものであることなどを明らかにした。曾我の政治活動については、河井日記のなかで詳細に記述される貴族院議員の海外視察記事をもとに、海外視察の意義についても考察した。また、従来、言及されることが殆ど無かった貴族院子爵議員板倉勝達による女性の政治的権利を求める発言についても明らかにした。

研究分担者の原口大輔は、河井弥八日記を利用して、貴族院議長徳川家達の政治的役割に関する研究書を刊行したほか、多額納税者議員を務めた麻生太吉の研究や貴族院議員松本学日記の翻刻などの研究成果をあげている。さらに研究分担者の奈良岡聡智は、河井日記の翻刻刊行のほか、第一次世界大戦期の帝国議会と外交について、大石眞は憲法史研究の成果を、それぞれまとめた。また、小宮京が、河井日記を利用して、戦後参議院について緑風会を中心に会派動向の解明を行うなどの成果をあげ、森山優は、戦中期の貴族院の動向を河井日記から浮き彫りにした。

その他、研究協力者の内藤一成、中園裕、村井良太は河井日記の翻刻・刊行に貢献したほか、内藤は、三条実美（中央公論新社、2019年）の評伝を執筆し、村井は、佐藤栄作（中央公論新社、2019年）ならびに市川房枝（ミネルヴァ書房、2021年）の評伝をまとめており、中園は河井日記を用い「地域の政治家像を探る～静岡県の育成と発展を願った河井弥八～」との研究発表を行った（2018年3月掛川講演会）。また、今津敏晃は、貴族院事務局に勤務し初代の参議院事務総長を務めた小林次郎文書について分析するとともに、戦時期の貴族院の政治活動を明らかにし（2018年9月本科学研究会報告）川崎政司は、議会法制を論ずる「議会と先例-議会法制における慣行等の役割・実態・限界等-」（『公法研究』81号、2019年）などの成果を挙げ、伊東かおりは、日本の議員による列国議会同盟（IPU）参加を歴史的に解明した（『議員外交の世紀 列国議会同盟と近現代日本』吉田書店、2022年）。

以上、本科研による研究は、貴族院や参議院に関わる史料研究を通じて、日本の議会政治の多様な側面を明らかにし得たと考える。なお、こうした研究成果の一旦は、河井弥八の生誕地であり政治基盤の地でもあった静岡県掛川市において、公開講演会・研究会を開催し（新型コロナウイルス感染症の拡大により、2022年3月にはオンラインで実施）一般への公開も行った。さらに、上述の研究の過程で、参議院事務局文書課所蔵の貴族院関係資料について、調査する機会を得、その後も調査を継続しているが、このことは、今後の研究進展に寄与することと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 小林和幸	4. 巻 888
2. 論文標題 鎌田勝太郎と衆議院選挙	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 61 - 63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 2020.1
2. 論文標題 辞めた首相は何を望むのか 元老を目ざした？吉田茂～河井弥八日記から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『論座』	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森山優（編・解題） 河井重蔵・弥八研究会校訂	4. 巻 22-01
2. 論文標題 河井弥八日記 一九四二年	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡県立大学大学院ワーキングペーパー	6. 最初と最後の頁 -, 1-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 36
2. 論文標題 貴族院議員・麻生太吉の誕生	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エネルギー史研究	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4475426	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 497
2. 論文標題 「通信統制」と地方新聞 「電通」の国策統合に抵抗する福岡日日新聞社	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西日本文化	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 36
2. 論文標題 新規整理分「麻生家文書」目録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エネルギー史研究	6. 最初と最後の頁 125-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/4475430	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 190
2. 論文標題 松本学と全村学校運動の展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 九州史学	6. 最初と最後の頁 70-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 886
2. 論文標題 昭和二〇年の貴族院改革論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 37
2. 論文標題 冷水鉄道敷設問題と貴族院議員・麻生太吉	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エネルギー史研究	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/4774198	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 41
2. 論文標題 新規整理分「麻生家文書」目録(二)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 石炭研究資料叢書	6. 最初と最後の頁 1-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/4774153	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石 眞	4. 巻 204号
2. 論文標題 「正確を期する」こと あるいはその難しさについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法の支配	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聰智・小林道彦	4. 巻 37
2. 論文標題 「第一旅団 西南戦記」全四巻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北九州市立大学 基盤教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 7020
2. 論文標題 遅れてきた帝国主義国家 世論におもねった外交 : 対華21カ条要求	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊東洋経済	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 952
2. 論文標題 新聞データベースの構築促進を	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学会会報	6. 最初と最後の頁 20 - 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 和幸	4. 巻 37
2. 論文標題 初期議会の貴族院多額納税者議員の所属会派について : 「山田荘左衛門関係文書」を通じて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 19 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/20978	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林和幸	4. 巻 7
2. 論文標題 板垣退助と谷干城	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 板垣会	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 70
2. 論文標題 第三次吉田茂内閣と緑風会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 1_271~1_292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.70.1_271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 31
2. 論文標題 明治期の静岡育英会 徳川宗家・旧幕臣・旧静岡藩	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 渋沢研究	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 10
2. 論文標題 創生期国土館の群像 福岡県人脈と渋沢栄一を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国土館史研究年報 楓げん	6. 最初と最後の頁 27-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 683
2. 論文標題 大正期における静岡育英会の展開と旧藩主・徳川家達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 29-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 33
2. 論文標題 新規購入史料紹介「(澤田節蔵宛徳川家達書翰)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公益財団法人徳川記念財団会報	6. 最初と最後の頁 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 38
2. 論文標題 拳国一致内閣の誕生と貴族院	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 95-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/21402	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林和幸	4. 巻 37
2. 論文標題 初期議会の貴族院多額納税者議員の所属会派についてー「山田荘左衛門関係文書」を通じてー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 19 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 51
2. 論文標題 戦後日本のフリーメイソン史 1949 1957	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史友	6. 最初と最後の頁 1 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石眞	4. 巻 14号
2. 論文標題 憲法改正論議と政局・政策論との間	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 吉野作造研究	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 10
2. 論文標題 創生期国土館の群像 福岡県人脈と渋沢栄一を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 楓?	6. 最初と最後の頁 27-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口大輔	4. 巻 31
2. 論文標題 明治期の静岡育英会 徳川宗家・旧幕臣・旧静岡藩	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 渋沢研究	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前山亮吉・森山優 (編)、河井重蔵・弥八研究会 (校訂)	4. 巻 18-01
2. 論文標題 河井弥八日記 一九四一年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Working Paper Series 静岡県立大学国際関係学研究科	6. 最初と最後の頁 1-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 原口大輔
2. 発表標題 立憲的制裁？ 星亨除名事件の再検討
3. 学会等名 2021年度九州史学会日本史部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良岡聰智
2. 発表標題 新聞データベースの活用と将来
3. 学会等名 佛敎大学オープニングラーニングセンター・京都新聞総合研究所提携講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良岡聰智
2. 発表標題 The emergence of Japan's "Monroe Doctrine for Asia": stereotyped criticisms of the 21 Demands to China by the Japanese media in 1915
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良岡聰智
2. 発表標題 駐日ベルギー大使館の歴史
3. 学会等名 第3回「ベルギー学」シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原口大輔
2. 発表標題 Inherited Leadership: The Chairman of the House of Peers in Modern Japan
3. 学会等名 2019 AAS Annual Conference in Denver (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林和幸
2. 発表標題 日記・史料から見る貴族院の役割
3. 学会等名 国立国会図書館における説明聴取会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林和幸
2. 発表標題 谷干城と明治日本
3. 学会等名 高知県四万十町 谷干城史料展 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良岡聰智、内藤一成
2. 発表標題 河井弥八と戦後の国土保全～皇室との関わりを中心に～
3. 学会等名 第8回河井弥八記念館講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原口大輔
2. 発表標題 自著『貴族院議長・徳川家達と明治立憲制』をめぐるあれこれ
3. 学会等名 九州史学研究会近現代史部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原口大輔
2. 発表標題 自著『貴族院議長・徳川家達と明治立憲制』書評リプライ
3. 学会等名 第85回内務省研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原口大輔
2. 発表標題 (討論者)「国際環境下の明治 - 「明治150年」の研究成果から考える“明治史” - 」
3. 学会等名 青山学院大学第38回史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原口大輔
2. 発表標題 帝国議会における国務大臣施政方針演説の定着過程
3. 学会等名 戦前戦後・比較政治史研究フォーラム / 現代政治過程研究フォーラム2018年度春季研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 尚友倶楽部 / 中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 660
3. 書名 河井弥八日記 戦後篇5 [昭和三十二年 三十五年]	

1. 著者名 小林和幸 編著、原口大輔、他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 明治史研究の最前線	

1. 著者名 小林和幸 (尚友倶楽部原田熊雄関係文書編纂委員会 編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 476
3. 書名 原田熊雄関係文書	

1. 著者名 伊藤之雄編著、小林和幸、他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 404
3. 書名 維新の政治変革と思想	

1. 著者名 増田弘・中島政希監修・小宮京	4. 発行年 2021年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 472
3. 書名 鳩山一郎とその時代	

1. 著者名 尚友倶楽部・原口大輔・西山直志編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 芙蓉書房出版	5. 総ページ数 609
3. 書名 松本学日記：昭和十四年～二十二年	

1. 著者名 原口大輔（寺内正毅関係文書研究会編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 576
3. 書名 寺内正毅関係文書2	

1. 著者名 原口大輔（見城梯治、飯森明子、井上潤責任編集、山口輝臣編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 渋沢栄一はなぜ「宗教」を支援したのか：「人」を見出し、共鳴を形にする	

1. 著者名 大石 眞	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 407
3. 書名 日本憲法史	

1. 著者名 大石 眞	4. 発行年 2021年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 384
3. 書名 憲法制度の形成	

1. 著者名 奈良岡聡智（筒井清忠編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 512
3. 書名 大正史講義	

1. 著者名 原口大輔（公益財団法人徳川記念財団、静岡県富士山世界遺産センター編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ことのは社	5. 総ページ数 240
3. 書名 徳川将軍と富士山	

1. 著者名 尚友倶楽部 / 中園裕・内藤一成・村井良太・奈良岡聰智・小宮京	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 685
3. 書名 河井弥八日記戦後篇4	

1. 著者名 山口輝臣・小林和幸・久住真也・落合弘樹・西川誠・千葉功	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 はじめての明治史	

1. 著者名 五百旗頭薫・奈良岡聰智	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 286
3. 書名 日本政治外交史	

1. 著者名 内藤一成	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 三條実美 維新政権の「有徳の為政者」	

1. 著者名 原口大輔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 302
3. 書名 貴族院議長・徳川家達と明治立憲制	

1. 著者名 寺内正毅関係文書研究会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 576
3. 書名 寺内正毅関係文書1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「貴族院と日記 明治期を中心に」小林和幸（国立国会図書館ホームページ） https://www.ndl.go.jp/nikki/essay/01/</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奈良岡 聡智 (Naraoka Souchi) (90378505)	京都大学・公共政策連携研究部・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大石 眞 (Ooishi Makoto) (90091660)	京都大学・法学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	森山 優 (Moriyama Atsushi) (60295566)	静岡県立大学・国際関係学部・教授 (23803)	
研究分担者	小宮 京 (Komiya Hitoshi) (80451764)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	
研究分担者	原口 大輔 (Haraguchi Daisuke) (00756497)	九州大学・人文科学研究院・専門研究員 (17102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	内藤 一成 (Naitou Kazunari) (20624969)	法政大学・文学部・准教授	
研究協力者	村井 良太 (Murai Ryota) (70365534)	駒澤大学・法学部・教授	
研究協力者	川崎 政司 (Kawasaki Masaji) (50649530)	慶應義塾大学・法務研究科・客員教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	葦名 ふみ (Ashina Fumi)	国立国会図書館	
研究協力者	中園 裕 (Nakazono Hiroshi)	青森県環境生活部県民生活文化課・文化・NPO活動支援グループ・総括主幹	
研究協力者	今津 敏晃 (Imazu Toshiaki) (60449973)	亜細亜大学・法学部・准教授	
研究協力者	伊東 かおり (Itoh Kaori) (90849902)	広島大学・学内共同利用施設等・助教	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関